

3-3

松本城の城主（1） さきのとだし 小笠原氏・前戸田氏

石川氏が改易され、慶長18年(1613)小笠原秀政が入封します。その後、元和3年(1617)戸田康長が松本城の城主となりました。今回はこの2氏についてお答え下さい。

1 小笠原秀政は松本8万石の領主として入封しますが前任地は何処でしょう。

②飯田

飯田5万石から3万石加増で松本に入封しました。小笠原貞慶と秀政は天正18年(1590)石川氏の松本入城にともなって下総古河にあり、関ヶ原の戦いのあと飯田に5万石で移っていた。一族は再び23年ぶりに松本に戻れたことを「二度の本意」と喜び合ったという。

2 小笠原秀政が足掛け4年間の在任中に行なったことを二つ選びなさい。

- ①鎌田にあった天満宮を宮村大明神の境内に城下の加護を願って移した。
- ③伝馬役を定めて中山道や善光寺道の宿駅の設定を行なった。
- 検地は測量を行なった検地ではなく、今までの帳簿を元に机上の計算によって上納高を決めたものであった。城下町では飯田町・小池町はこの時から呼ばれるようになった。また「法度」を定めて治安維持に当たり町方に庄屋・年寄を置いて支配のしくみを整えました。

3 大坂夏の陣において小笠原秀政と長男忠脩が天王寺の戦いで戦死します。

秀政と忠脩の供養塔は現在松本市浅間温泉御殿山の大陸寺跡に貞享3年(1686)水野忠直によって建てられた五輪塔ともう一箇所あります。そのお寺を答えなさい。



廣澤寺小笠原家廟所

②廣澤寺

4 秀政のあとは大坂の陣で重傷をおった忠政が継ぎます。忠政が大坂夏の陣に出陣するとき乳母が城から追いかけてきて忠政に思いとどまるように袖にすがって離しませんでした。しかし、忠政は両袖を振り切って出陣したという話が伝わっています。その場所を「袖留橋」と呼んだとされますが、現在の何処でしょう。

①本町5丁目と博労町の境の緑橋のこと ———— 長沢川にかかる緑橋

5 忠政は後に忠真と名をかえますが、元和3年(1617)2万石加増されて松本から転封します。次の内から正しい転封先をえらびなさい。

④明石 10万石 寛永3年(1626) 忠真の兄忠脩の遺児幸松丸(忠次)は播州竜野の地を与えられる。寛永9年には忠真は小倉15万石に転じ、忠次は九州中津藩8万石に転じそれぞれ島原の乱に出陣した。譜代大名として九州の地に睨みをきかした。

6 元和3年 戸田康長が7万石で高崎から松本に入封します。康長の室は家康の養妹「松姫」ですが、下の写真の内松姫の肖像画はどれでしょう。(松姫は二連木で24歳で死去)



①お市の方



② 淀君



③松姫

松姫は松本には一回も来たことはありませんでした。

7 戸田康長の時、大天守6階の井桁梁の上に天守の守り神の社をまつりました。この祭神の名前を答えなさい。

③二十六夜神 月齢26日の月を拝する信仰、夜中に月がのぼるのを待つ月待信仰

8 康長は正室松姫との間に一男一女をもうけます。しかし長男は体が弱く40歳で元和5年松本で死去しました。康長の長男の名前を答えなさい。(康長のあとを継いだのは側室との間に生まれてた康直でした。)

① 永兼 家康の孫でありながら領主になれなかった永兼を暘谷様として祭った。松本の人々はいつの頃からか永兼の母松姫もわが子が城主になれなかつことを悲しんでいるだろうと松姫を暘谷様と呼ぶようになり、暘谷伝説が形成されていった。暘谷伝説は平成21年2月21日出題予定。

9 康長は永禄5年(1562)の生まれですが松本城主となったのは何歳のときでしょう。

②56歳

10 戸田康長は松本城中で死去しました。その墓(右写真)を丹波塚と呼んでいます。現在、墓はどこにあるでしょう。

①松本市 県2丁目3番5号 戸田廟園内  
(「お塚」と呼ばれている)



コラム 小笠氏が発見したから小笠原詣高が

小笠原諸島 東京都に属し都心から南方1000キロの太平洋上に点在する。聳島・父島・母島の三列島に属する30余の島からなる。

父島・母島を主島とする。

1593年(文禄2)小笠原貞頼により発見され、その姓をとり島名としたというのが史料的裏付けはない。

おがさわらさだより  
小笠原貞頼(生没年不詳)

貞頼は小笠原長時の曾孫で織田信長・秀吉・家康に仕え小田原の戦いに従軍、朝鮮出兵には軍検使として渡韓した。家康の信頼を得て伊豆奉行になり、無人島開発を任せ南海に航海して1593年三島を発見したという。(「小笠原島新誌」)

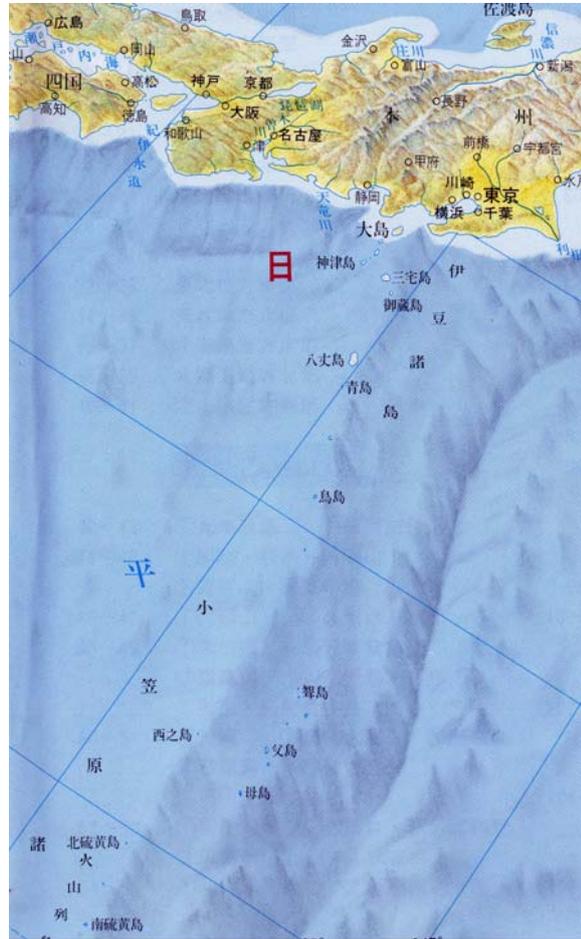
しかし、このことは確かな史料には見えず真偽が疑わしい。

また、小笠原貞頼の名は「小笠原家譜」「寛政重修諸家譜」などには載っていない。

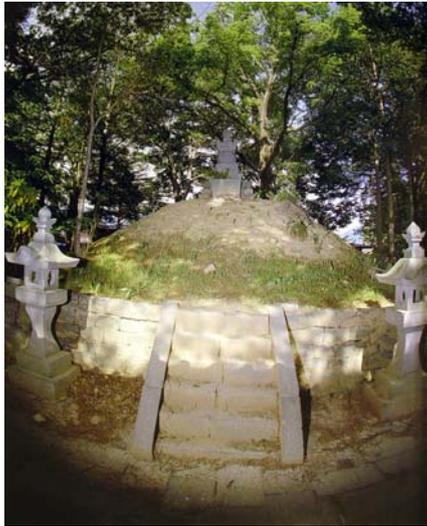
おがさわらさだとう  
小笠原貞任一件

1727年(享保12)、小笠原貞頼の曾孫と称する小笠原貞任が幕府に小笠原諸島への渡航を願い、一族の式部長晃を先発として出発させたが、小笠原宗家九州小倉藩小笠原家から小笠原貞頼・貞任は一族にあらずと異議が申し立てられ長晃は重追放となった。(一説には長晃は漂流して帰らなかったという。)

したがって「小笠原諸島の命名と小笠原氏との関係については、1593年(文禄2)小笠原貞頼により発見され、その姓をとり島名としたといわれていますが、確たる史料的裏付けはないそうです。」という答えが妥当と思われます。参考文献を問われたら「国史大辞典2」の「小笠原諸島」「小笠原貞頼」の項を参照されたいというのが良いと思います。



●この廟園は1617年から1633年と1726年から1870年まで二度にわたり松本藩主であった戸田家の  
 廟所です。(戸田家はこの他に岐阜市加納智勝院・東京染井墓地にも墓所があります。)場所は松本県ケ丘高  
 校の北側にあります。葬られているのは初代<sup>やすなが</sup>康長・6代<sup>みつゆき</sup>光行・7代<sup>みつつら</sup>光年・8代<sup>みつつね</sup>光庸の弟<sup>みつむね</sup>光領夫妻です。



② 6代<sup>みつゆき</sup>光行・③7代<sup>みつつら</sup>光年・④8代<sup>みつつね</sup>光庸の弟<sup>みつむね</sup>光領

①<sup>たんばづか</sup>丹波塚(初代<sup>しよだい</sup> 戸田<sup>とだ</sup>康<sup>やすなが</sup>長)

⑤<sup>みつむね</sup>光領<sup>しつ</sup>の室(妻)の墓

